過眼録

七拾七冊之内

拾

831
77
95

別置

3-8
2-2

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用

周公旦解京

侵

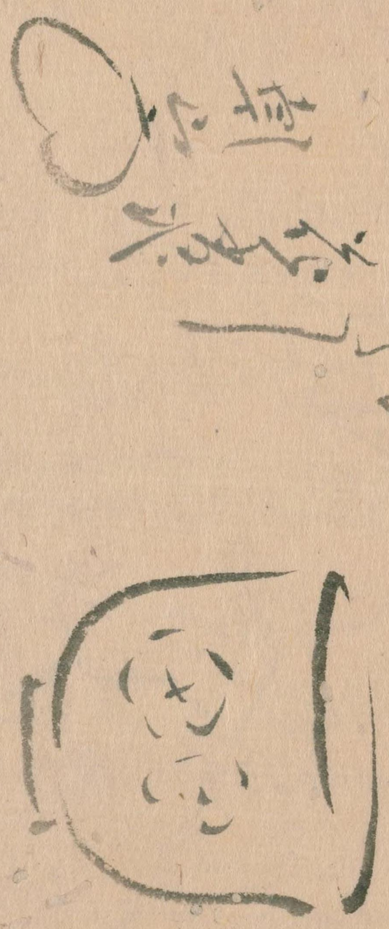
国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』 請求記号 寄別3-8-2-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

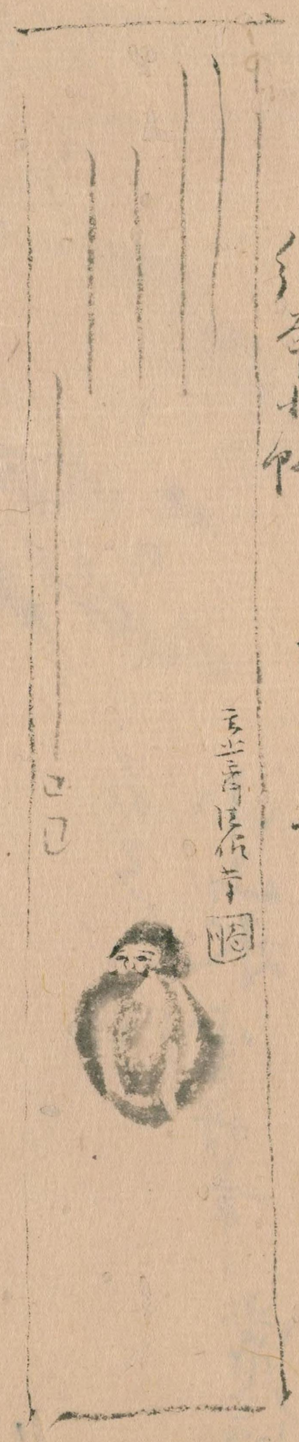
ガラス使用

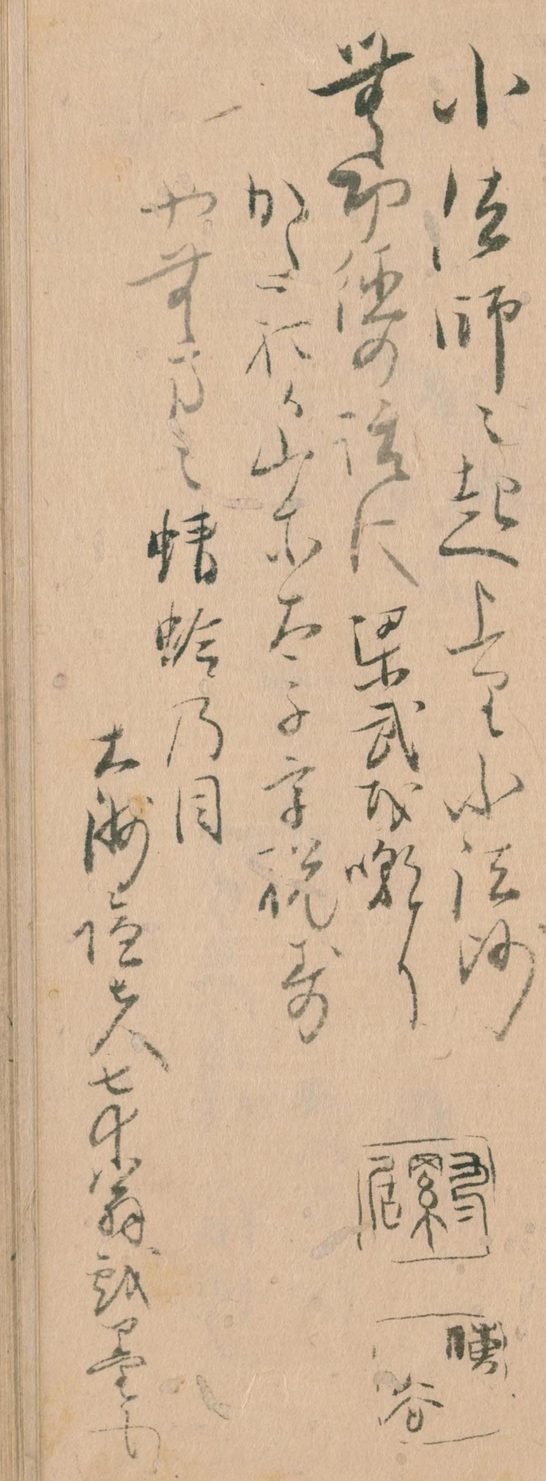
国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号　寄別3-8-2-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』請求記号 寄別3-8-2-2
ガラス使用

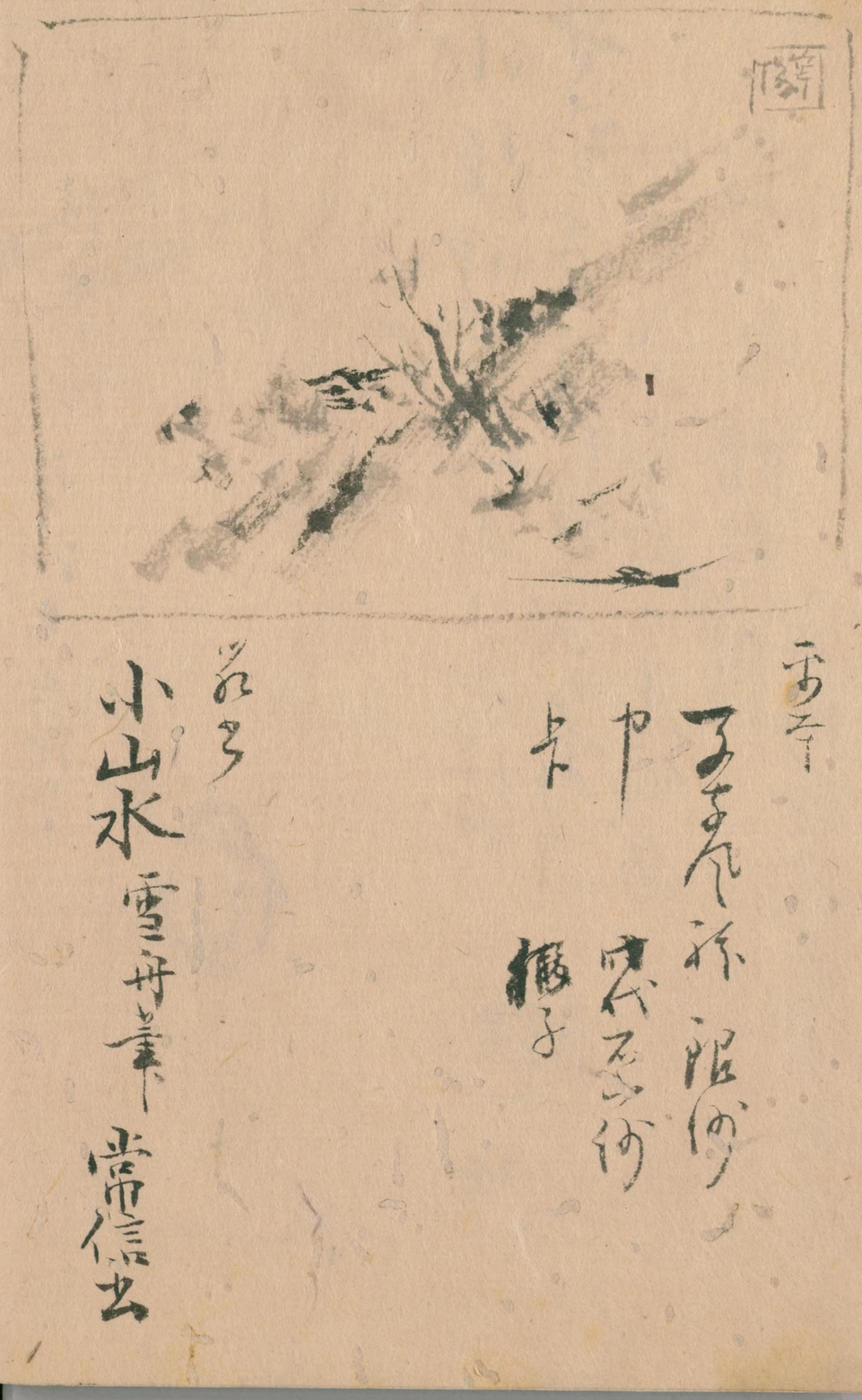
国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用



西天

[illegible]

[illegible]

[illegible]子

名号

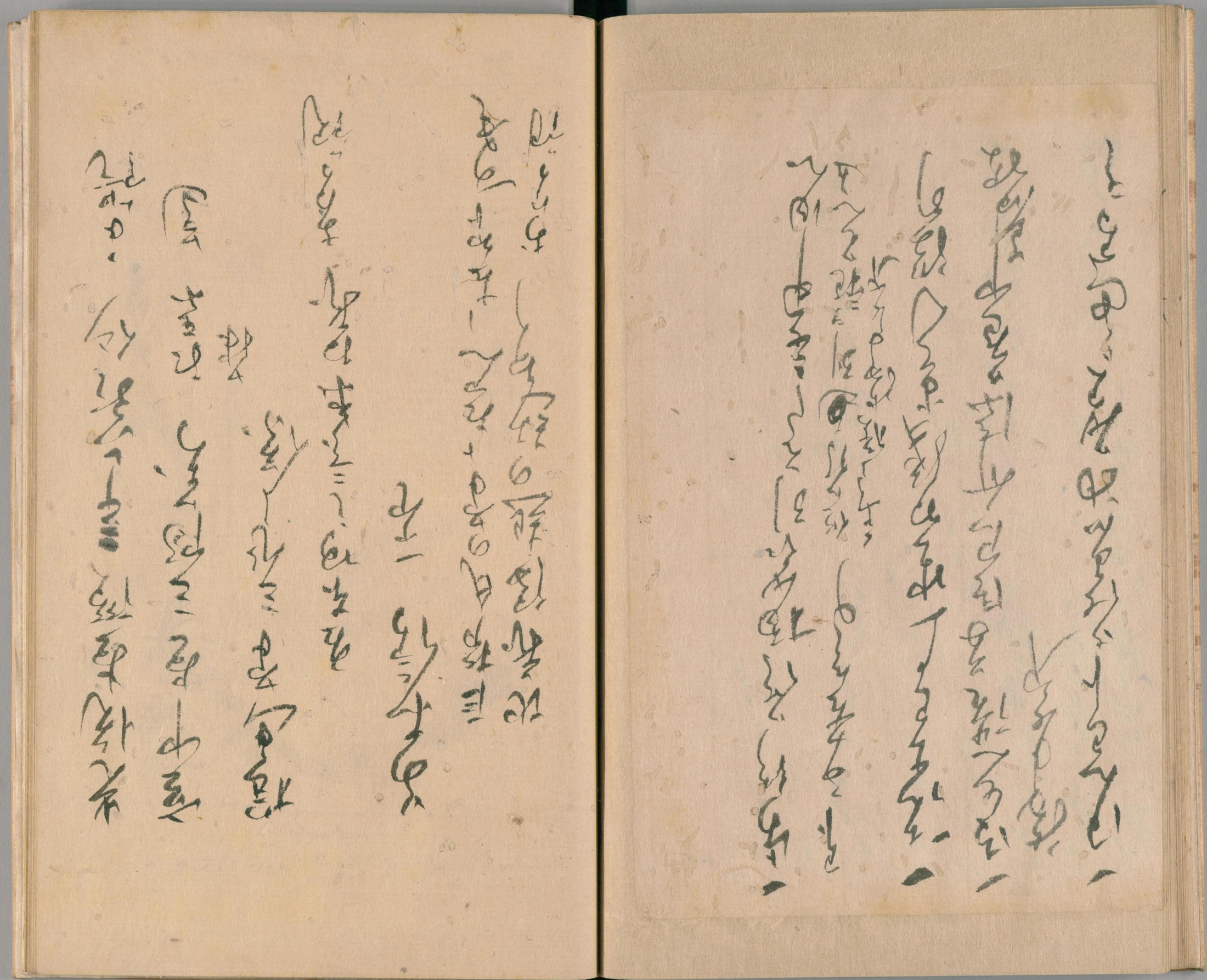
小山水 雪舟筆 常信出

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用

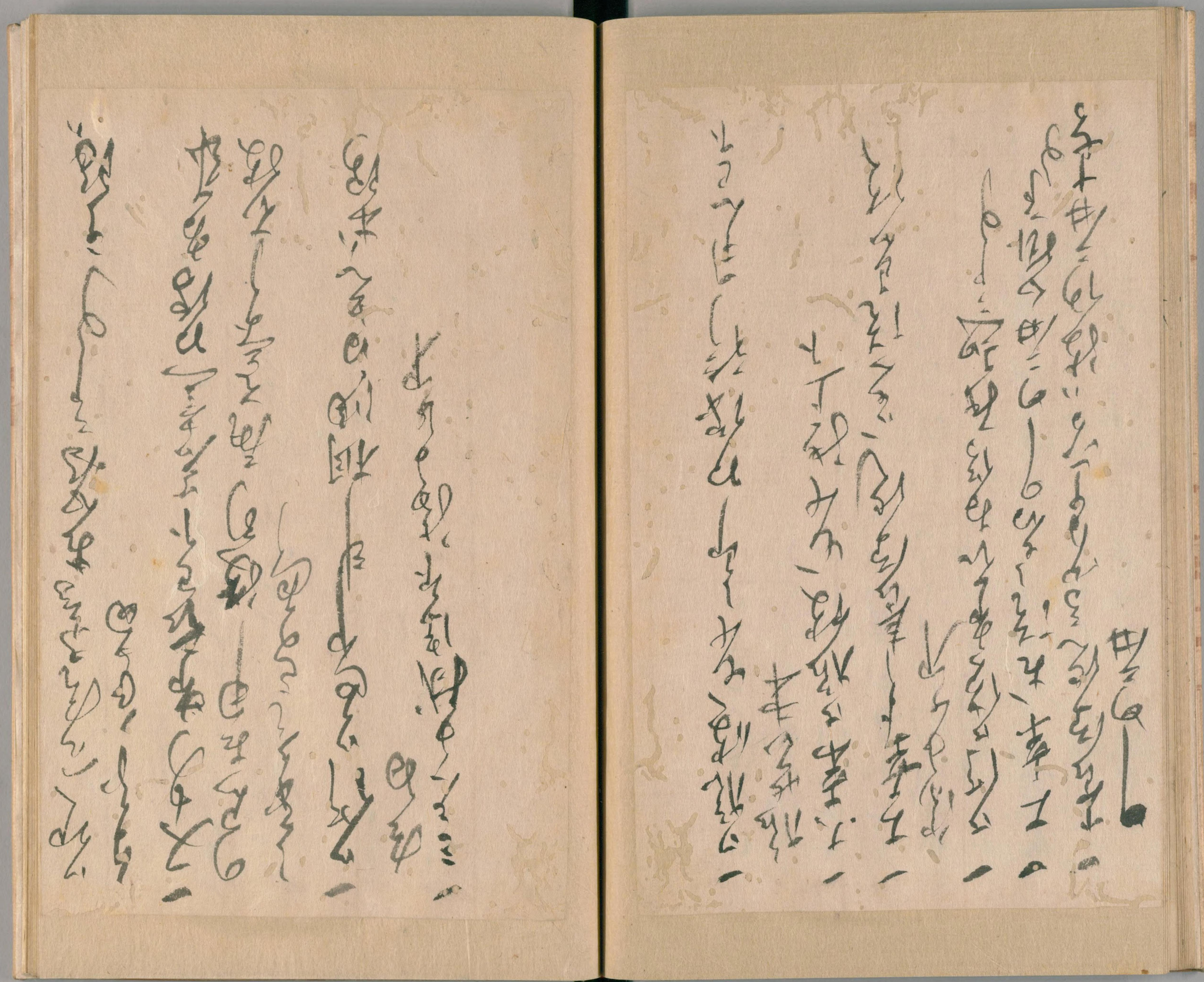
国立国会図書館　タイトル『過眼録』請求記号 寄別3-8-2-2

カラス使用



国立国会図書館　タイトル『過眼録』請求記号 寄別3-8-2-2

力ラス使用



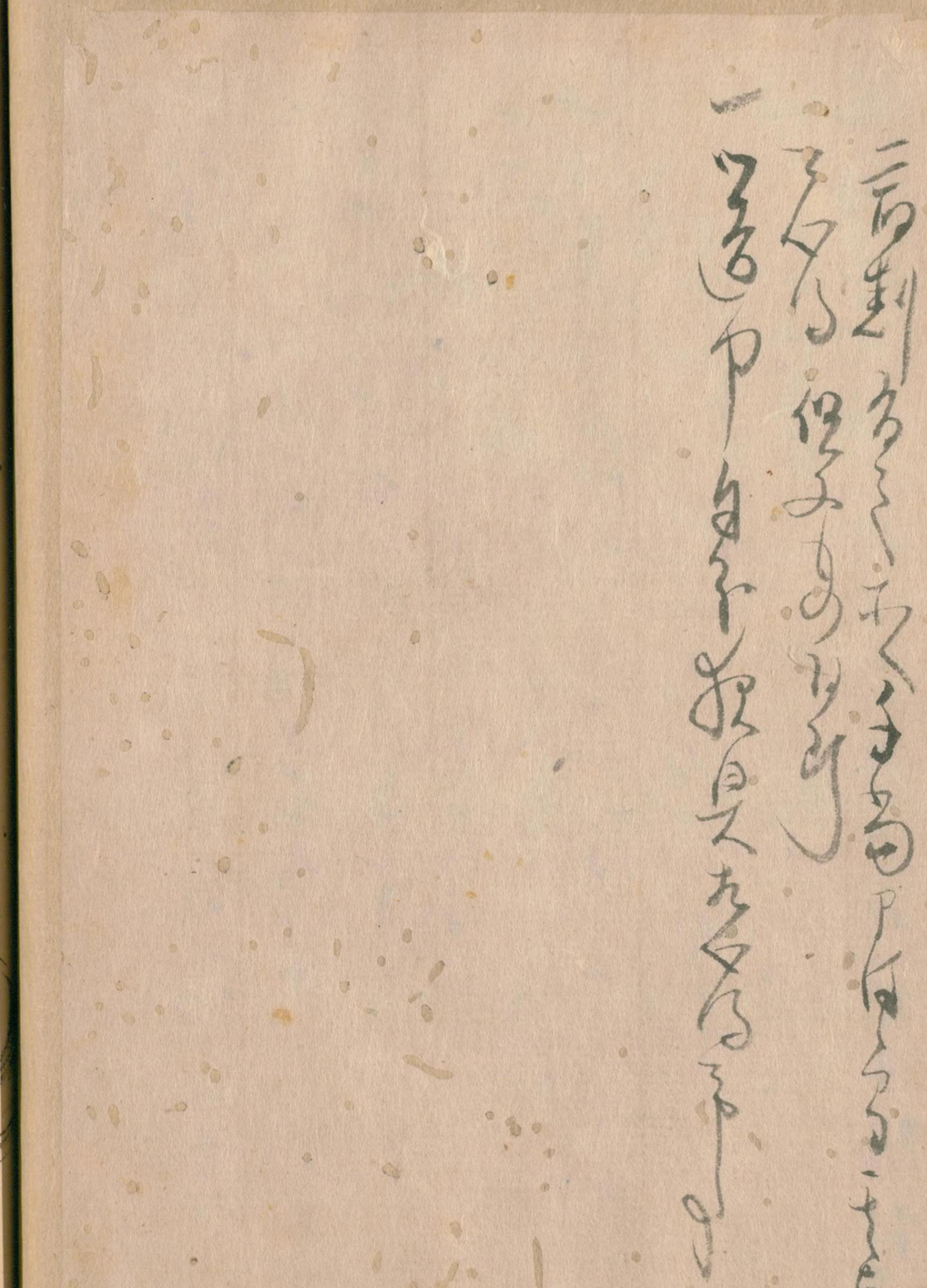
国立国会図書館　タイトル『過眼録』請求記号 寄別3-8-2-2

力ラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』請求記号 寄別3-8-2-2
カラス使用

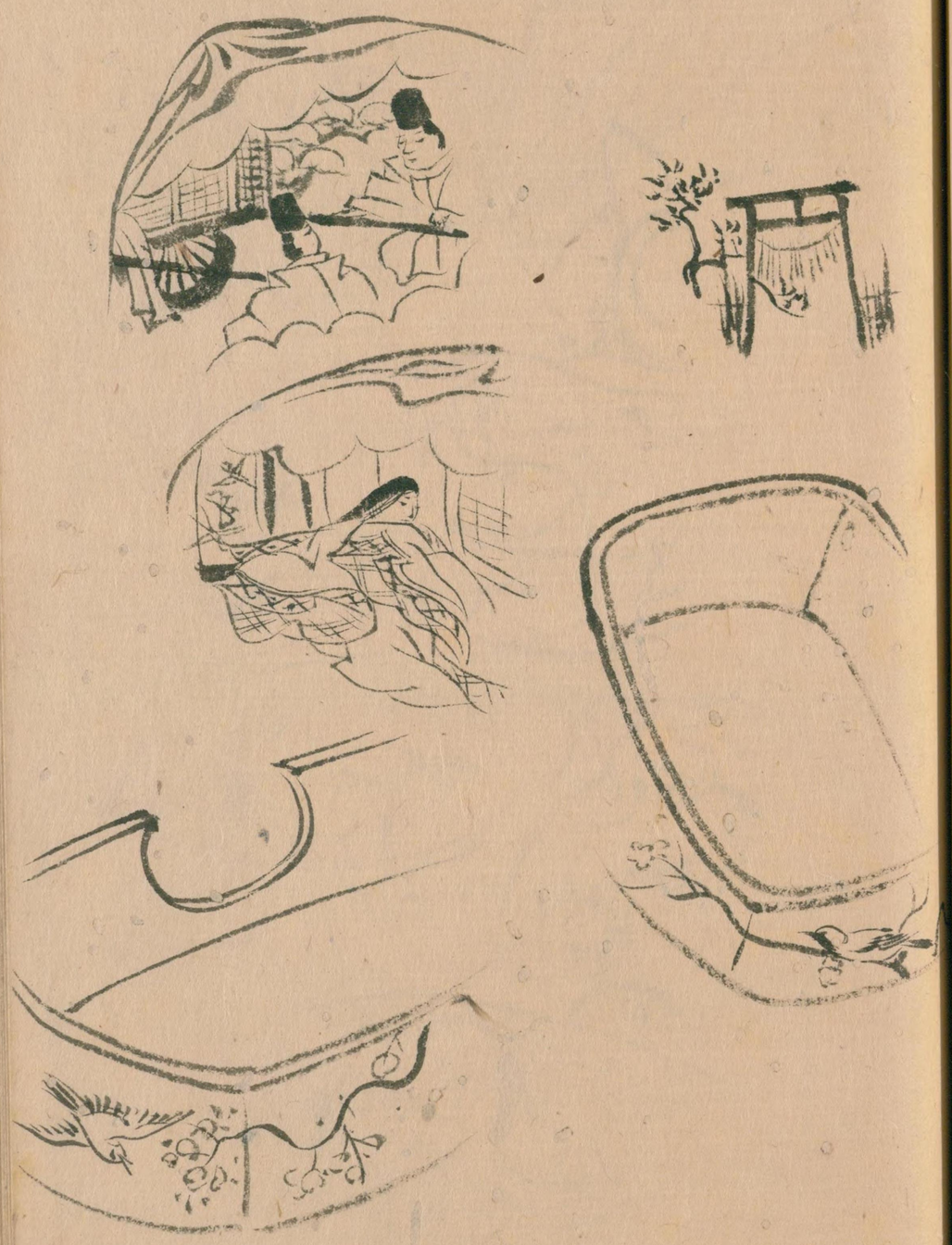
国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号　寄別3-8-2-2

力ラス使用



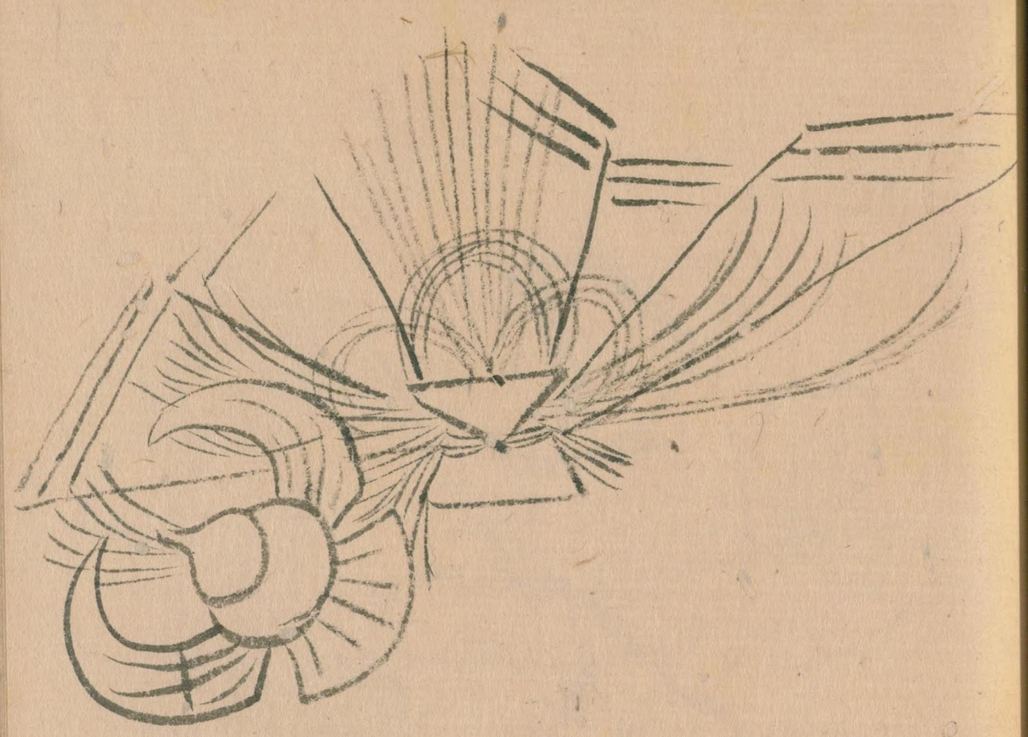
国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用



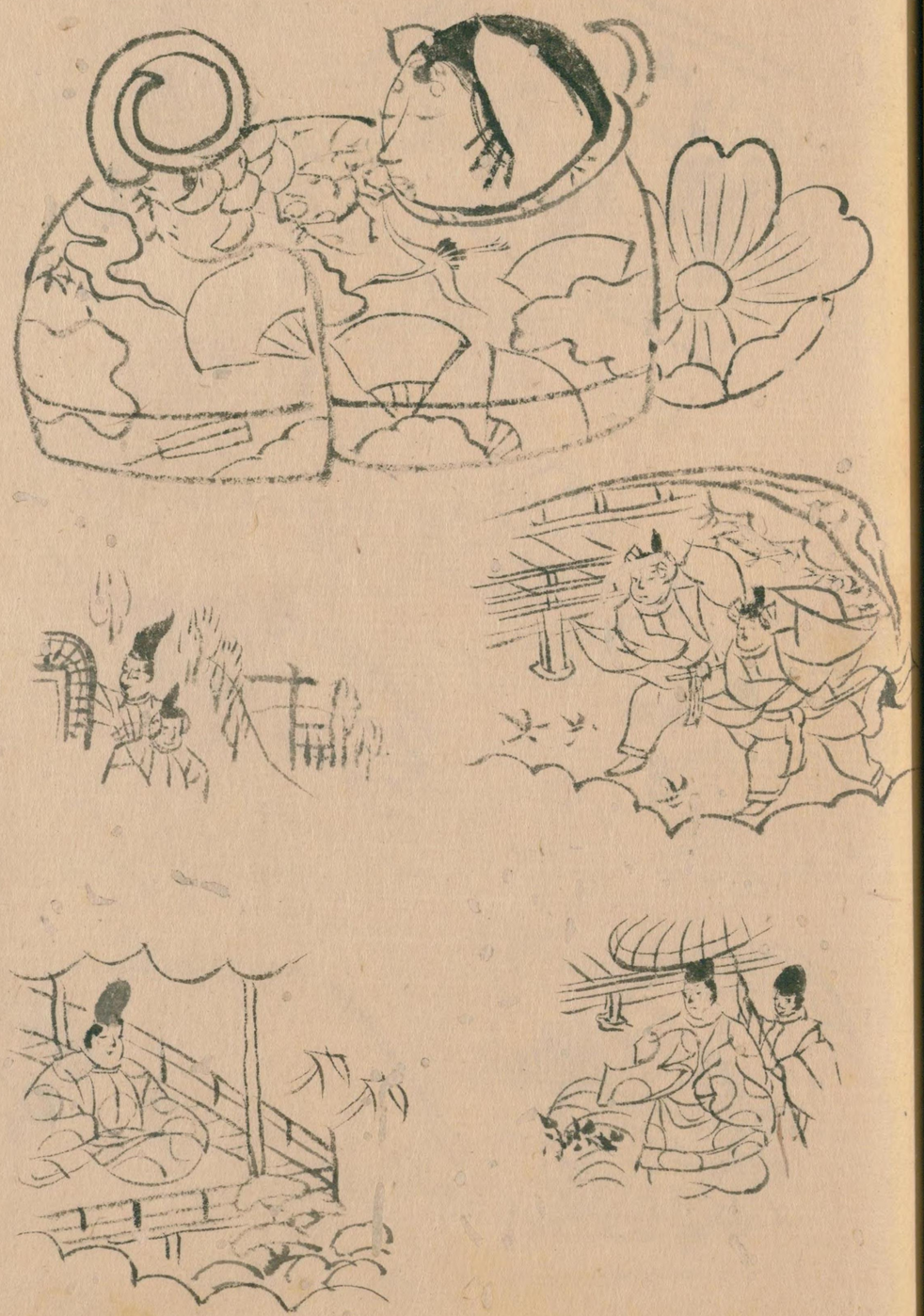
国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『過眼録』 請求記号 寄別3-8-2-2

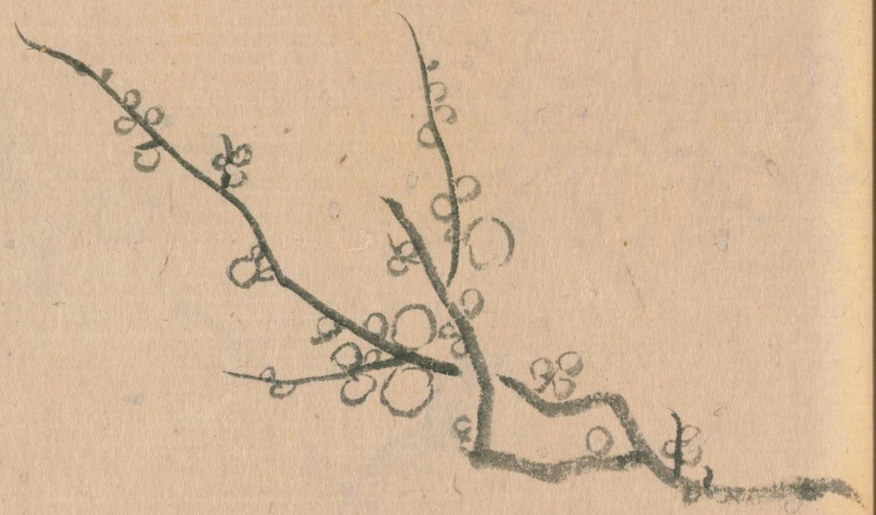
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用

春

元亨年間の古刀者

国立国会図書館　タイトル『過眼録』請求記号 寄別3-8-2-2
カラス使用

夏

世礼の氏

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用

比丘尼の世にありし時このまへ一生作の付
茅の二三年ふるうくる思ふのか
石ともしらずしるする石ふ祁し
茅庵の周然かくも松たて
仮とよ人もの杉のなかこにも
代んの事とも都の方にかはやて
冬ごもりせしからんするらの心
六玉川の記より
篠まで萩むたのきん萩の牛
篠の戸の瓶ほやの上こには
夕影やものの花しきもの影

秋

晩秋の初村は寿なる
豆の茎沢もあらん時の

名もしけるおくるもとの浦
しるるうもしらで
古堅り行けてやるとのうみの浦
まあるかれてる人の待ちし
庭のうちにしのやくくれ深み
床にもまたのにありけるに
兄しくの深き方とて居空
秋さほや秋の臥せる起まり
親の東東の事の秋の蛤
てれしまる人の行は
在藤のなりけり文
田より
居様する花を
ひもしかやまて祈世
君の事も春しるまーしむすき

名とし知恩の
深みの夢明ける
上

国立国会図書館　タイトル『過眼録』請求記号 寄別3-8-2-2
カラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』請求記号 寄別3-8-2-2
ガラス使用

文翠寄題集抄序

文翠催促し急なり 世に唐詩文山の陽に栄
武を以て仁和學の末に於て年を経けるに
此一王室 敬すべき主様に辞して
雑纂す 偈四字五字 一句半 作做頴
論る自由大宅 最 指延沫 是追 是說 法而
丁林立寄題序を論じや其の君子の詞
詩よ於てなきに 俳事の外に言わず 芭蕉
翁猿蓑 俳諧庵と策し 是在宮や 去来
す 近くもまた詠ずる翁の志を以て 翁の識
復以て継て御国の韻者 一石一字の
隠者撰なる世智て懐ま宗く之律 十七年春

春

有花萌芽子も化して蝶に飛ぶ 花の夢
井中は何ら宮女の白拳となる
うくひすや菜の畑の幾ケ所に
作蓄らのあたり有つや梅のひ
七十翁
片庭枝の梅はちく 畑也
足芭蕉翁の往昔の句子
梅香に迷ふ道のちまた
引ききつる柳之中
言うけくさく 去来 其外に
君かまたほくるんを 年興あきや
当戸中 小さく遠く もなく 田畑より
梅 ならず なき
桜 を 見て 中 陸 の 上 に

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用

三日月やゑのころ草の葉一本
三月尽
明ぬる夜は星にあらしも雲の杖

夏

菜種ほす梺や津風の子規
吉方風して山路とをきよ杜宇
木曽川のほとりにて
あれ木や筏の上の杜宇
月ほのかに柾ねに消にけり
初花のけ以らの中に不はよれ
短夜寝る
原の枕の夢やし椿おもしろ秋
柳あつてせりしけ田植かな
高斗らぬ旅行在に
筆せ好なし打かめ中

えしあま道草の中やなゑのころ
男女の子を待ち
やりとりして帰る時かみんこる
御手の里にて
舟をあけしかとみの[illegible]
能はさに[illegible]の袖や[illegible]
[illegible]
な[illegible]
[illegible]
白南[illegible]や升の[illegible]
[illegible]
つ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号　寄別3-8-2-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号　寄別3-8-2-2
カラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号　寄別3-8-2-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』請求記号 寄別3-8-2-2
カラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号 寄別3-8-2-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』 請求記号 寄別3-8-2-2
ガラス使用

831
77
95

国立国会図書館　タイトル『過眼録』 請求記号 寄別3-8-2-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『過眼録』　請求記号　寄別3-8-2-2
ガラス使用